

## 認定職業訓練校におけるめっき技術者の養成

東京都鍍金工業組合高等職業訓練校(金属表面処理系めっき科)は、1970年に職業能力開発促進法に基づく全国初の「めっき技術者養成」のための専門教育訓練機関として、東京都知事の認定を受けた。以来46年にわたり長い歴史と伝統を受け継ぎ、これまで2,000人以上の修了生をめっき業界を支える人材として輩出してきた。

めっき技術は、わが国のものづくりを支える基盤技術として、私たちが生活するうえでなくてはならないものであり、自動車部品、家電、携帯電話や装飾品など幅広い工業製品等で利用されている。

当訓練校では、「現場での即戦力養成」をモットーに、ものづくり現場での実務知識や経験豊富な講師陣により、厚さ・硬さ・耐食性試験など「実技教育訓練」を取り入れた基礎から応用までの人材育成カリキュラムにより、教育訓練効果の向上を図っている。



写真：分析実習

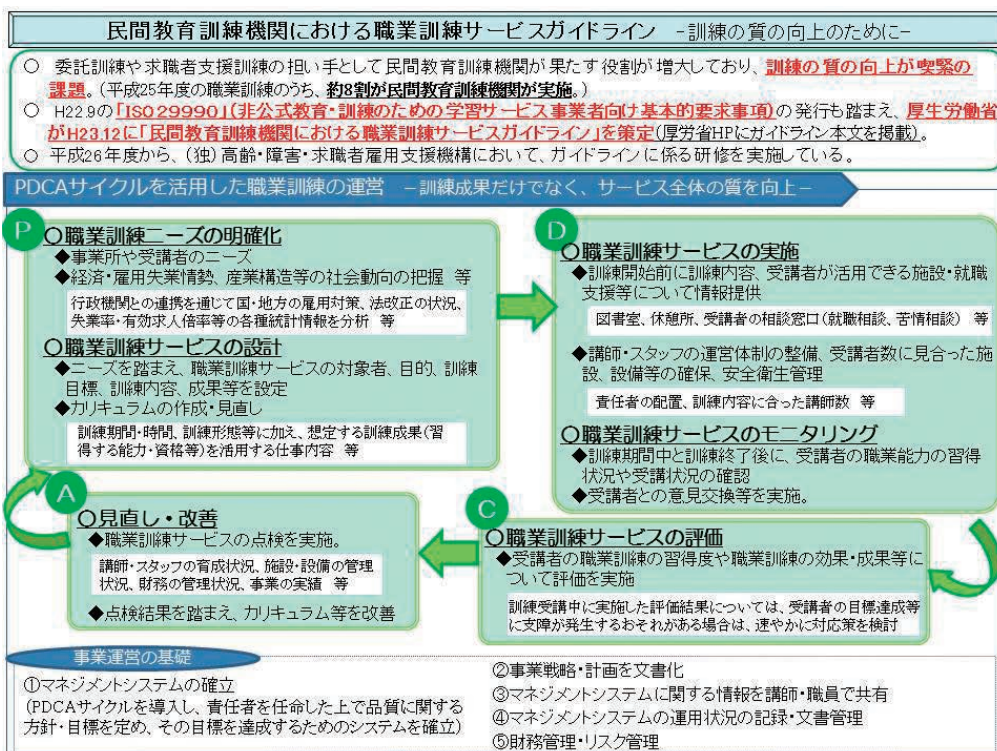


写真：めっき実習

### (3) 訓練の質の向上に向けて

公共職業訓練と求職者支援訓練のうち、約8割を民間教育訓練機関が担っており、民間教育訓練機関の訓練の質の向上は喫緊の課題である。厚生労働省では、2011年12月に「民間教育訓練機関における職業訓練サービスガイドライン」を策定し、訓練の質の向上のため、同ガイドラインの普及・定着に向けて、全国で民間教育訓練機関における職業訓練サービスガイ

ドライン研修を実施している。職業訓練サービスガイドラインには、いわゆるPDCAサイクルを活用して職業訓練サービスの運営・改善を図っていくための体制や方法が、示されているが、これに加えて、具体的な例示や、取組事例が豊富に取り込まれ、自己診断表も添付されるなど、民間事業者が自主的に取組やすい内容になっている。



### 3 若者のものづくり離れへの対応

#### (1) ポリテクカレッジを始めとする学卒者訓練

全国のポリテクカレッジや都道府県の職業能力開発校では、高等学校卒業者等に対し、ものづくり分野を中心とした学卒者訓練を実施している。例えば、ポリテクカレッジでは、高等学校卒業者等を対象に、機械加工や機械制御の専門的技術・技能を習得する「生産技術科」等において、高度な知識と技能・技術を兼ね備えた実践技術者を育成し、さらにその修了生等を対象とした「生産機械システム技術科」等において、製品の企画・

開発や生産工程の構築・改善・運用・管理等に対応できる生産現場のリーダーを育成し、ものづくり産業を担う企業へ送り出している。

また、ポリテクカレッジでは、若年者に対する実践的な技術教育を充実させるため、工業高校等との間で、職業訓練指導員の派遣や、教育訓練の実施などの連携を行っている。

2015年度のポリテクカレッジの訓練生は約6千人、都道府県の職業能力開発校の訓練生（学卒者訓練）は約1万6千人である。

## コラム

### ポリテクカレッジと工業高校との連携例

ポリテクカレッジ浜松（静岡県浜松市）では、若者のものづくり分野の理解を深め、ものづくり産業への職業観を涵養するため、地元高校の3年生15名を対象に、パソコンで車型ロボットの動きを制御するプログラミングを学ぶ体験授業を実施した。

北海道ポリテクカレッジ（北海道小樽市）では、高校教員の技術力を向上させ、高校生に対する実践的な技術教育を充実させるため、北海道内の工業高校教員19名に対し旋盤・CAD・シーケンス制御の研修を行った。

こうした連携は全国のポリテクカレッジで実施されており、平成26年度は245件の取組が行われた。



写真：体験事業の風景（ポリテクカレッジ浜松）



写真：CAD研修の風景（北海道ポリテクカレッジ）

#### (2) 若年者への技能継承

若者のものづくり離れが見られる中、長年培われた技能の継承が重要である。

このため、2013年度から、ものづくり分野で優れた技能、豊富な経験等を有する熟練技能者を「ものづくりマイスター」として認定<sup>注13</sup>し、若年技能者等に対する実技指導を行っている（「ものづくりマイスター」制度）。実技指導は、若年技能者の人材育成を行う企業、業界団体、教育訓練機関にものづくり

マイスターを派遣して実施している。この実技指導は、職種に必要な様々な技能の要素が盛り込まれた課題（技能競技大会の競技課題、技能検定の実技課題）を用いている。

また、2015年度から、各中小企業・学校等の実技指導ニーズに応じ、より広域的な活動を促すとともに、ものづくりに適性のあるフリーター等の若年向け実技指導方法等の開発・活用を進めるなど、ものづくり産業・技能の魅力発信の取組を一層強化している。

注13：2015年度末現在 認定者数（累計値）7,225人

## ものづくりマイスター制度の実例 ～愛媛県伊予市の農業高等学校における和裁の実技指導～

### 【学校の担当教諭からの声】

本校では、造園職種でものづくりマイスター制度を活用していたが、自分が教える生活科学科でも活用できると薦められ、制度を活用した。ものづくりマイスターの方には、指導回数に制限がある中、学校行事や時間割の変更にも柔軟に対応して指導を行っていただいた。

また、講習の際は、生徒一人一人に向き合った指導を行っていただき、具体的な良さを引き出すアドバイスは生徒にとって大きな励みとなった。

ものづくりマイスターと教師といった立場の違う指導者が、同じ場所で同じ目的を持って生徒を指導していくことは、生徒にとってとてもよい経験となった。

### 【受講者からの声】

- ・ 具体的な技能に対する指導以上に、練習に対する取組方について教えていただいたことが良かった。日々の練習では、先を急いでしまいがちだが、落ち着いて自分の苦手な部分を意識して一つ一つの作業に納得する姿勢を持つことを学んだ。
- ・ ものづくりマイスターの指導を受けて「ものづくりを通して人の役に立ちたい」という意識が強まり、そのために一つ一つの練習を確実に積み上げていくという気持ちを持つことができた。

### 【ものづくりマイスターの感想】

指導にあたっては、事前に先生と「どのタイミングで何を教えることが最も効果的か」を話し合い、指導日程を決め、教えるポイントについて打合せを行った。

生徒に対しては、限られた時間で全てを教えることはできないので、生徒に負荷をかけないように、新たな練習を加えるのではなく、既に授業で行っている練習内容に「ひと工夫を加える」ことを基本とした。これだけでも生徒の針や糸の使い方を飛躍的に向上させることができた。



写真：指導風景



写真：指導風景

## コラム

ものづくりマイスター制度の実例  
～岡山県加賀郡の企業における機械加工の実技指導～

## 【企業の経営者からの声】

ものづくりマイスターの指導を受けたことによって、技能の向上以外にも、若い従業員の意識や姿勢に変化が見られるようになった。よりよい作業環境を作るための工夫をしたり、終業後に自主的に練習をする者もいる。

通常業務が忙しい中、練習時間も確保していくことは大変だが、経営者がそれらを両立できる環境や仕組みを作ってあげることが大切だと思う。

## 【受講者からの声】

- ・ これまでは独学で2級技能士を取得したが、1級ともなると独学では限界があった。そのような時にもものづくりマイスターの指導を受け自分の技能を基礎から再確認することができた。ものづくりマイスターのちょっとした助言により、いままでできなかったこと、苦手だったことが解決できるようになり、自分の中の引き出しが増えた。
- ・ 社内では先輩として、後輩の手本となるような存在でいたいと常々思っていたが、ものづくりマイスターの指導は、「教え方」についても勉強になった。

## 【ものづくりマイスターの感想】

指導にあたっては、「自分の経験と感覚」を言葉にして教えるため、自分自身が基本に立ち戻って技能の復習を行うことで指導方法を作り上げていった。受講者は若い人が多いので基本技能に加え、技能者として大切な姿勢を身につけることを主眼に置き、「ドリルの刃を研げれば一人前」といわれるように、使用するドリルの刃を研ぐことで、事前準備の大切さと加工技術の基礎を教えることができた。

また、指導時に、次回までの目標を決め、受講者がその目標をクリアするために努力するので、毎回の訪問が楽しみになった。



写真：指導風景



写真：指導風景

## (3)ものづくりの魅力発信

若年者が進んでもものづくり技能者を目指すような環境を整備するために、ものづくり技能者の社会的評価の向上を図ることや、子供から大人までの国民各層において、社会経済におけるものづくり技能の重要性について広く認識する社会を形成することが重要である。

また、ものづくりは、日本ならではの伝統や文化と密接に結びついている面も大きい。このようなものづくりのブランド性を高め、技能の継承に社会的な光を当てていく観点からも、様々なものづくりの魅力発信の取組が求められている。

広く社会一般に技能尊重の気風を浸透させ、もって技能者の地位及び技能水準の向上を図るとともに、青少年がその適性に

応じて誇りと希望を持って技能労働者となってその職業に精進する気運を高めることを目的として、卓越した技能者（現代の名工）を表彰している。被表彰者は、次のすべての要件を満たす者のうちから厚生労働大臣が技能者表彰審査委員の意見を聴いて決定している。

## &lt;要件&gt;

- ① きわめて優れた技能を有する者
- ② 現に表彰に係る技能を要する職業に従事している者
- ③ 技能を通じて労働者の福祉の増進及び産業の発展に寄与した者
- ④ 他の技能者の模範と認められる者

## コラム

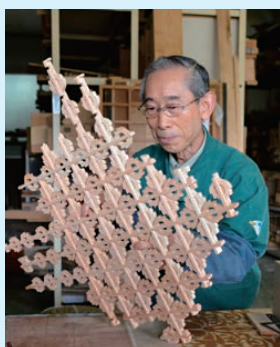
### 2015年度の現代の名工の紹介①

～指物・建具職の2つの技能をベストミックスし、重要文化財の修復・復元に多大なる貢献～

福井 澄夫 氏(80歳) 木製建具製造工 【日進木工(株)】

福井澄夫氏は、重要文化財等の伝統的建造物の内部の指物・建具分野の保存修理及び復元に長年従事して培った知識・技能を有しており、特に指物職と建具職の異なる技能を組み合わせる技能に卓越している。それにより、数々の重要文化財の保存修復・復元に大きく寄与するだけでなく、技能五輪全国大会や技能グランプリで選手を入賞させるまでに育てあげるなど、後進指導・育成においても積極的に取組、業界の発展に多大なる貢献をしている。

今回の受賞について、「自分で選んだ職業で、この道一筋と決めてやってきましたが、この度の受賞は夢のようで、師匠や諸先輩、会社の皆様のお蔭だと感謝しております。頂点のない仕事ですので、私自身も死ぬまで修行だと思っています。若い人たちには厳しい姿勢で（製品の出来で）どこが良いのか、どこが悪いのかをしっかりと伝えて、心構えを持った職人を育てていきます。」と語っており、今後の一層の活躍が期待される。



写真：建具の組子を製作している作業風景



写真：飛騨春慶（ひだしゅんけい）鏡台

## コラム

### 2015年度の現代の名工の紹介②

～神鏡を日本古来の鑄造法で製造できる卓越した技能をもち、文化の維持と後継に多大なる貢献～

山本 富士夫 氏(66歳) 鏡師 【(株)山本合金製作所】

山本氏は、日本古来の鑄造法による金属鏡の製作に卓越している稀有な職人である。添加剤や機械を用いない徹底した手作業で、神社等に納める神鏡などを製作している。伊勢神宮式年遷宮時の摂末社の神鏡や、全国ほとんどの神社の御霊代鏡、安倍首相がバチカン訪問時にフランシスコ法王へ贈呈した魔鏡など、数多くの金属鏡製作に携わっており、その技能は国内外から高く評価されている。

今回の受賞について、「このように名誉ある賞を受賞できたのは、家族や業界の仲間たちのおかげであり、心から感謝しています。後世まで技能を継承していけるよう、後継者の息子とともに、これからも人の心に長く残る物を作っていきたいと思えます」と語っており、今後の一層の活躍が期待される。



写真：鏡(やすり)切削・鏡の表面をやすりで研磨する工程。  
全て手作業で一切の機械を用いない。



写真：八寸栗鼠（りす）と兎文（うさぎもん）白銅（はくどう）鏡

また、子供から大人まで国民各層で技能尊重の気運を醸成し、ものづくり人材の育成の重要性が再認識されるよう、以下の大会等を開催している。

### ①技能五輪国際大会

青年技能者(満22歳以下)が国際的に技能を競うことにより、参加国・地域の職業訓練の振興及び技能水準の向上を図るとともに、青年技能者の国際交流と親善を目的とした大会である。1950年に第1回が開催され、現在は原則2年に1回開催されており、我が国は1962年の第11回大会から参加している。

直近では2015年8月にブラジル・サンパウロで第43回大会が開催された。日本選手は、40職種の競技に参加した結果、「情報ネットワーク施工」、「製造チームチャレンジ」、「自動車板金」、「電子機器組立て」、「移動式ロボット」の5職種で金メダルを獲得したほか、銀メダル3個、銅メダル5個、敢闘賞14個の成績を収めた。金メダル獲得数の国・地域別順位は、韓国(13個)、ブラジル(11個)に次ぐ、第3位であった。

また、次回第44回大会は2017年10月にアラブ首長国連邦・アブダビでの開催を予定している。

## コラム

### 技能五輪について (第43回技能五輪国際大会優勝者インタビュー)

電子機器組立職種：今多和歩選手(トヨタ自動車株式会社)

「電子機器組立」について

【「電子機器組立」の魅力について教えてください。】

電化製品のほとんどは「電子回路」で制御されており、自分の知識や技能を駆使することで思い通りに制御することができるようになる。

【「電子機器組立」において、最も必要と考える技能は何ですか。】

はんだ付けを素早く高品質で仕上げる技能。

技能五輪大会について

【本大会を目指すようになったきっかけは何ですか。】

中学生の時に手に入れた模型の車が、真っ直ぐしか走らないものだったが、自分で自由自在に制御したくなり、電子回路やはんだ付けに興味を持つようになった。その後、高校で競技大会の存在を知り、参加していく中で自然と技能五輪を目指すようになった。

【本大会に向け、練習(訓練)をどのくらいの期間実施しましたか。】

1日8時間、入社してから大会まで毎日訓練しました。

(8h×20日×12か月=1920h/年)

【本大会を目指す過程で嬉しかった、または苦労したことは何ですか。】

(嬉しかった事)自分の成長度合いが、得点や作業時間で目に見えていくこと。

(苦労した事)ライバルが目に見えない中、1人で訓練を継続すること。

【本大会に参加して有意義だったことは何ですか。】

国内の他職種の選手や他国の電子機器組立職種の選手と交流出来たこと。

【本大会での優勝経験を今後どのように活かしていきたいとお考えですか。】

職場で、良いものづくりや後輩の育成に活かしていきたい。



写真：電子機器組立職種の課題に取り組む今多選手

## ②国際アビリンピック

障害のある人々が職業技能を競い合うことにより、障害者の職業的自立の意識を喚起するとともに、事業主や社会一般の理解と認識を深め、さらに国際親善を図ることを目的として開催されている。「アビリンピック」(ABILYMPICS)は、「アビリティ」(ABILITY・能力)と「オリンピック」(OLYMPICS)を合わせたものである。

第1回国際アビリンピックが国連で定めた「国際障害年」である1981年に東京で開催されて以来、おおむね4年に1度開催されており、直近では第9回大会が2016年3月にフランス・ポルドーで開催された。

### コラム

## 国際アビリンピックについて

第9回 国際アビリンピック (9th International Abilympics、主催: Abilympics France) が、3月23日(水)から同月26日までの4日間、フランス・ポルドーで開催された。今回の大会では、日本を含めた31か国・地域の458名の選手が参加して48の種目で競技が行われた。

日本選手は、17の種目の競技に参加し、「義肢製作」、「歯科技工」の2種目で金賞を獲得し、銀賞3個、銅賞5、特別賞1個の成績を収めた。



写真：義肢製作種目の課題に取り組み金賞を受賞した香川貴宏選手（株式会社松本義肢製作所）



写真：歯科技工種目の課題に取り組み金賞を受賞した柳本佑選手（有限会社ケイ・ワークス）

## ③技能五輪全国大会

国内の青年技能者が競技職種ごとに技能レベルを競うことにより、青年技能者に努力目標を与えると同時に、技能に身近に触れる機会を提供するなど、広く国民一般に対して技能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重気運の醸成を図ることを目的として、1963年から毎年開催している。

第53回技能五輪全国大会は、2015年12月に千葉県幕張メッセを主会場に開催し、全41職種の競技に全国から1,183人の選手が参加した。

## コラム

## 技能五輪について（第53回技能五輪全国大会優勝者インタビュー）

精密機器組立職種：片岡美由紀選手(キヤノン株式会社)

## 「精密機器組立」について

【「精密機器組立」の魅力について教えてください。】

3つの機械を使用した機械加工とヤスリを使った手仕上げで0.001 mmというミクロの精度感覚が身に付くこと。

【「精密機器組立」において、最も必要と考える技能は何ですか。】

ヤスリを使用した手仕上げ技能。最終仕上げで0.001 mmの調整をする為。  
また、手仕上げ技能を磨くことで、機械加工で必要となる手の感覚をより身に付けることができるため。

## 技能五輪全国大会について

【本大会を目指すようになったきっかけは何ですか。】

旋盤職種で女性選手が競技している姿を見て、「私もこんな風にカッコよくなりたい!」と憧れたから。

【本大会に向け、どのような練習(訓練)を実施しましたか。】

大会課題の公表前から、大会課題で必要となる要素加工の反復練習と自分の苦手分野を克服する為の訓練を行い、大会課題の公表後は大会を想定したタイムトライアル訓練と、大会課題で出た問題点の研究、改善を繰り返し行った。

【本大会を目指す過程で嬉しかった、または苦労したことは何ですか。】

(嬉しかったこと) 大会課題で出た問題点を試行錯誤しながら解決できたこと。

(苦労したこと) 3つの機械で0.001 mmの精度を安定して出すことができなかったこと。

【本大会に参加して有意義だったことは何ですか。】

女性でも関係なく機械加工の分野で活躍でき、同年代の男性と競い合えたこと。

男性とは違った観点で大会課題に取り組むことができたことに気付けた。

【本大会での優勝経験を今後どのように活かしていきたいとお考えですか。】

技能五輪を目指す後輩、女性選手に技能やメンタルトレーニング法等、後輩達がより一層活躍できるように、経験を伝えていきたい。



写真：精密機器組立職種の課題に取り組む片岡選手



#### ④全国障害者技能競技大会(アビリンピック)

障害のある方々が日頃職場等で培った技能を競う大会であり、障害者の職業能力の向上を図るとともに、企業や社会一般の人々に障害者に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的として開催している。アビリンピックは、1972年から4年に1度開催される国際アビリンピックの開催年を除き毎年開催され、直近では、2014年11月に第35回大会が、愛知県と機構の共催により開催され、332名の選手が参加して、「コンピュータープログラミング」、「電子機器組立」、「木工」等のものづくり技能を含む24の種目について競技が行われた。

#### ⑤技能グランプリ

特に優れた技能を有する1級技能士等が参加する技能競技大会であり、技能士技能の一層の向上を図るとともに、その熟練した技能を広く国民に披露することにより、その地位の向上と

技能の振興を図ることを目的として、1981年度から実施しており、近年は2年に1度開催している。直近では、2015年2月に千葉県を主会場として開催した。

#### ⑥若年者ものづくり競技大会

若年者のものづくり技能に対する意識を高め、若年者を一人前の技能労働者に育成していくためには、技能習得の目標を付与するとともに、技能を競う場が求められる。このため、職業能力開発施設、認定職業訓練校、工業高校等において技能を習得中の20歳以下の者を対象に毎年「若年者ものづくり競技大会」を開催している。

さらに、2013年に創設した若年技能者人材育成支援事業において、地域における技能振興に係る取組の促進を図ることとし、都道府県単位で、地域関係者の協力を得て、各種講習会等を実施している。

## コラム

### 若年者ものづくり競技大会 (大会参加校(名古屋市立工芸高等学校)へのインタビュー)

平成27年度に第10回を迎えた本大会だが、4人の選手を送り出し、うち3人が入賞した実績を持つ名古屋市立工芸高等学校は、大会へ向けた取組を通じて学生の技能向上や人材育成を図っている。

#### ものづくりの魅力について

【ものづくりの魅力について教えてください。】

自分の創造したものを「カタチ」にできること。必要なツールを使いこなす技術を学び、これまで机上の空論だったものがカタチとなる喜びや感動こそがものづくりの魅力である。

【ものづくりに携わるに当たって、最も必要と考えることは何ですか。】

完成させることが終了ではなく、常に向上心を持ち続けて改善点を見つけ出し、さらにより良いものづくりに挑戦すること。

#### 若年者ものづくり競技大会について

【本大会に学生を出場させようとしたきっかけは何ですか。】

他の出場者と比較することで自己の技能レベルを計ることができ、また、互いが技を競い合う、大会参加経験を通して精神面でも鍛えることができると考えた。

【本大会に向け、どのような練習(訓練)をどのくらいの期間実施しましたか。】

3年間を通じて練習を行っている。大会のための技能を磨くことはもちろんだが、その技能を社会で活用するための取組も実施している。

【本大会に出場する生徒をどのように選定していますか。】

大会の職種に興味がある生徒を集め、様々な活動を行っている。活動を通して自然と大会出場を意識し、練習に励むことになる。

【本大会に参加することは、生徒や学校にとってどのようなメリットがあるとお考えですか。】

大会の課題は社会で必要とされるスキルに沿った内容になっており、その課題に向かうことで技能向上を図れる。第二のメリットとして、大会本番などでは広い視野、判断力、集中力などが必要となるため、この経験を通して何事にも負けない精神力を身につけることができる。

また、目標を持った練習を通して自信や誇りを芽生えさせ、その技能を自分の力にして社会へ巣立っていく姿が大会出場を目指す後輩のよき手本となっている。

【本大会への参加について、学校としての今後の課題や抱負をお聞かせください。】

大会に挑戦したい学生の気持ちに応えるために、今後も成長していく学生の後押しをしていきたい。また、さらに高い技能を身につけてもらうため、新しい取組にも積極的に挑戦し、学校自体のスキルアップにもつなげたい。

#### (4)地域若者サポートステーション

地域若者サポートステーション（愛称：「サポステ」）は、働くことに悩みを抱えている15歳から39歳までの若者に対し、就労に向けた支援を地方自治体と協働で行う施設である。サポステは、厚生労働省が委託した全国の若者支援の実績やノウハウのあるNPO法人等が実施しており、全国に設置されている。

サポステでは、①キャリアコンサルタント等による一人一人に応じた専門的な相談やコミュニケーション訓練、②学校等関連施設

と連携した中退者支援等を行うとともに、③職場体験等により就労に向けた支援を実施している。また、一部のサポステでは、合宿形式を含む生活面等のサポートと職場実習の訓練を集中的に実施する若年無業者等集中訓練プログラム事業を実施している。さらに、2015年度からは、ニート等の若者支援の拠点としてハローワークとの連携を強化するとともに、これまで一部のサポステでのみ実施していた職場定着の支援を全国展開するなど、職業的自立に向けた就労支援の強化を図っている。

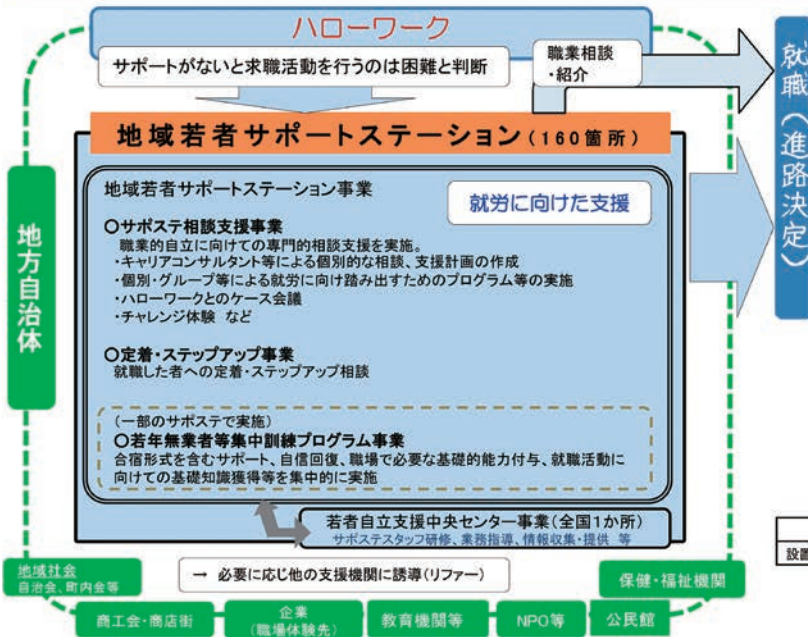
～若者の職業的自立支援～

### 地域若者サポートステーション

若者職業的自立支援推進事業 

- 若者の数が減っているにもかかわらず、若年無業者（ニート※1）の数は近年、約60万人で高止まり。
- これらの者の就労を支援することは、若者の可能性を広げるだけでなく、将来生活保護に陥るリスクを未然に防止し、経済的に自立させ、地域社会の支え手とするとともに、我が国の産業の担い手を育てるために重要。
- このため、若年無業者等の若者が充実した職業生活を送り、我が国の将来を支える人材となるよう「地域若者サポートステーション」(※2)において、地方自治体と協働し(※3)、職業的自立に向けての専門的相談支援、就職後の定着・ステップアップ支援、若年無業者等集中訓練プログラムを実施。

※1 15～34歳で、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者 ※2 H18年度～。若者支援の実績・ノウハウのあるNPO法人等が実施。15～39歳対象 ※3 地方自治体から予算措置等



【サポステの実績の推移】  
進路決定件数



	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
設置箇所数	25	50	77	92	100	110	116	160	160

## 福岡若者サポートステーション利用者の体験談

福岡若者サポートステーション(福岡県福岡市)利用者 Aさん

高校卒業後、様々な事情により2度の大学中退を経験した。そのような中、母の知人の紹介で福岡若者サポートステーション(以下「福岡サポステ」という。)へ相談に行くこととなった。

福岡サポステでは、「君の好きなこと」「やりたかったことは?」「大学をなぜ辞めたの?」「親の思い」「自分自身の思い」をはっきりさせましょうと、数回の面談を受けた。これら面談を通してものづくり関係の業種に興味を持っていることに気づき、クラフト工芸社でのチャレンジ体験(職場体験)に参加することとなった。

クラフト工芸社でのチャレンジ体験期間中は、職人とも気兼ねなく接することができ、体験開始から4週間を経過した頃に「彼は計算も速いし興味があるようだ大丈夫だろう」との認識の下、体験後に正規社員として採用されることとなった。

現在、10ミリ合板を円形加工しており、この帯鋸が卒業できれば、継ぎ接ぎの仕方を教えると言われている。汗を流しながら形のあるものを作るといふ仕事が向いているようで、楽しく充実した日々を過ごしている。



写真：職場でのAさん

## 4 社会的に通用する能力評価制度の構築

働く者の能力開発や評価をよりの確に行っていくためには、企業が求める職務や人材像を能力要件として具体的に示すとともに、労働者も企業が示す能力要件に照らして不足している職業能力の開発向上を図ることができるような、双方をつなぐ「共通言語」が求められている。

### (1) 技能検定制度

技能検定は、労働者が有する技能を一定の基準に基づき検定し公証する制度であり、ものづくり労働者を始めとする労働者の技能習得意欲を増進させるとともに、労働者の社会的地位の向上に重要な役割を果たしている。

技能検定は、厚生労働大臣が、厚生労働省令で定める職種ごとに、等級に区分して厚生労働省令で定める実技試験及び学科試験により行っており、合格者は「技能士」と称することができる。

技能検定の職種は、2016年4月1日現在、127職種であり、製造業における中心的な検定職種(機械保全職種、電子機器組立て職種等)については、特に工業高校生の受検が過去5年間で急増している。2013年4月1日からは、エントリーレベルの3級の受検資格を緩和したところであり、今後とも、技能検定の受検動向等を通じた普及拡大を図っていくことにより技能習得に取り組む若年者が増えることが期待されている。

本制度は1959年度から実施され、2014年度には全国で約69万人の受検申請があり、約28万人が合格している。技能検定制度開始からの累計では、延べ約547万人が技能士となっている。

なお、2015年度において、産業活動の高度化や労働市場ニーズに即応した技能検定のアップデート、活用促進の総合的取組を推進する「技能検定集中強化プロジェクト」を実施している。

また、2014年8月から、今後需要の増加が見込まれる航空機関連の人材(製造技術者等)の育成等に関して検討を行っている「航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会」に、厚生労働省も関係省庁として参画している。